

小笠原諸島世界自然遺産候補地科学委員会 における検討内容のポイント

1. 議題と開催経緯

- ・ 第 1 回 開催日 平成 18 年 11 月 29 日 (水) 10:00 ~ 12:00
議 題 (1) 小笠原諸島の世界自然遺産としての価値の証明について
世界自然遺産推薦・登録までの流れについて
小笠原諸島の世界自然遺産としての価値について
地形・地質の価値について
(2) 小笠原の自然環境の保全と再生等について
小笠原の自然環境の保全と再生に関する基本計画(案)について
関係事業の実施について

- ・ 第 2 回 開催日 平成 18 年 12 月 21 日 (木) 15:00 ~ 17:00
議 題 (1) 暫定リストにおける価値の証明について
(2) 推薦書提出に向けた今後の取り組みについて
保護担保措置について
外来種対策について

2. 結論のポイント

世界自然遺産地域としての価値の証明について

小笠原諸島の世界自然遺産としての価値が整理され、「地形・地質」「生態系」「生物多様性」において、相当の価値を有するとの結論を得た。

外来種対策について

課題である外来種対策については、推薦の際、一定の成果を示すとともに、将来的にも価値を維持できる見通しをつける必要があるとの見解を得た。

推薦の時期について

推薦書提出までに今後 3 年程度の時間をかけて、上記のとおり外来種対策に取り組むのが妥当であるとの見解を得た。

3. その他特筆すべき意見等

- ・ 外来ブラナリア等の導入を予防する観点から、検疫体制の整備を求める意見が出された。これを受けて、環境省は導入予防システムに関する先進事例等、基礎情報の収集に着手すること、村や都からは、従来の取り組みに加え、関係機関が連携・協力して必要な対策を検討する旨を説明した。
- ・ オガサワラシジミ、オガサワラオオコウモリ等希少野生生物の保護・増殖や、その生息地の担保が今後の課題として提示された。委員会事務局は、今後具体策を検討し、管理計画に反映していくことを説明した。
- ・ アホウドリが生息する鳥島も遺産候補地に含めるべきではとの意見があった。しかし、同種の遺産登録地が既に存在するなど、普遍的価値を説明し難いこと等を理由に、当面、対象としないこととした。
- ・ 外来種問題の取り組みについて、多様な主体や多分野の専門家が連絡調整、情報共有できる仕組みの必要性が指摘された。委員会事務局は、地域連絡会議と連携しつつ、部会やワーキンググループを積極活用し、適切に対策を推進していく旨を説明した。